

令和4年度 京都市人権レポート

京都市人権文化推進
計画に基づく事業報告書

京都市では、人権文化推進計画に基づき様々な取組を進めています。昨年度の取組の一部を御紹介します。

ヤングケアラーに関する取組 ～子どもが子どもでいられる社会を目指して～

【ヤングケアラーって?】

- ・本来大人が担当と想定されている家事や家族の世話を日常的に行っている児童のことです。
- ・年齢や成長の度合いに見合わない重い責任を負うことで、本人の成長や教育に影響があるといった課題があるとされています。



厚生労働省

- 孤独・孤立に起因する様々な社会問題に取り組むため、プロジェクトチームを令和3年4月に、ヤングケアラーの問題を集中的に検討する部会を同年6月に設置しました(令和4年3月まで)。
- 同部会において、7月以降にヤングケアラーに関する実態調査を実施しました(主な調査結果は、以下のとおり)。

実態調査(対象:市立中高生、市立学校、ひとり親世帯、支援者等)

<結果概要(アンケート調査)>

- ・「世話している家族がいる」と回答したのは、中学生の5.4%、高校生の3.5%
- ・「ヤングケアラーという言葉聞いたことがある」と回答したのは、
中学生は32.1%、高校生は27.3%
- ・家族の世話に費やす平日1日当たりの時間について、中高生ともに「3～7時間」の回答が最も多いが、「7時間以上」の回答も2～3%程度
- ・実態調査の結果等、ヤングケアラー部会の取組については↓

(<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000294497.html>)

【中学生】調査数=20,966件



【高校生】調査数=2,684件



ヤングケアラーの認知度は高いとは言えない。

認知症サポーター活動促進事業 ～認知症になっても安心して暮らせるまちづくりを～

令和3年度から、認知症への偏見をなくし、認知症の御本人・御家族や、認知症サポーター[※]など地域住民等の地域の多様な主体が、「支える側」「支えられる側」の関係を越えて地域をともににつくっていくことを目指す「認知症サポーター活動促進事業」を始めました。

京都市長寿すこやかセンターに配置しているコーディネーターが、認知症の御本人・御家族の思いと地域住民等をつなぎ、認知症の御本人・御家族が社会参加できる地域づくりの取組を進めています。その取組の一つ(チーム上京!)が、NHK及びNHK厚生文化事業団が主催する、第5回「認知症とともに生きるまち大賞」の本賞を受賞しました。

※認知症に対する正しい知識や具体的な対応方法といった接し方を学んだ、認知症の御本人・御家族を温かく見守る応援者

チーム上京!の取組

認知症になられた方の「もっと地域と繋がりたい!」という思いをきっかけに、御本人の自宅前ガレージを開放し、出張カフェを開催したり、地域の子どもの遊び場として提供したりするなど、地域住民同士の世代を超えた交流の場を生み出しています。

チーム上京!についてはこちら(<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000292018.html>)



再犯防止推進事業 ～やり直すことができる社会と安心・安全なまちの実現を目指して～

京都市再犯防止推進計画に基づき、「やり直すことができる社会と安心・安全なまちの実現」を目指し、国や民間団体等と連携しながら再犯防止の取組を総合的かつ計画的に推進しました。

令和3年度の取組

- ・「京都市生きづらさを抱える若年者の居場所づくり等支援事業補助金」の創設交付件数:2件。補助金を活用して、生きづらさを抱える若年者に対する居場所づくりに加え、専門家(保健師等)によるセミナーの開催や個々の特性に応じた就労支援を実施。
- ・人権啓発パネル展「やり直すことができる社会と安心・安全なまちの実現を目指して」の開催場所:ゼスト御池寺町広場 期間:令和3年8月17日～20日
- ・企業向け人権啓発講座「協力雇用主」という社会貢献」の開催(令和4年2月24日実施)



詳細はこちら(<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000281846.html>)